

2022年11月17日
井関農機株式会社

2022年12月期 第3四半期 決算説明会
質疑応答要旨

(問1) 通期業績予想の修正理由は。

(回答)

- ・原材料価格の高騰が一部想定よりも大きかったのが一つ。また、原油価格高騰に端を発し、製造所・販売会社などの操業費負担が増加する見込み。売上高において海外の伸長でカバーされているが、国内の方が利益率は良いため、この影響もある。

(問2) 北米コンパクトトラクタ市場は調整局面という事だが当社の今後の見方は。また在庫の拡充を今後どのように進めていくか。

(回答)

- ・今期の北米コンパクトトラクタ市場は2019年レベルと考えている。来期についても、当社戦略パートナーAGCO社では継続してこのレベルとの見方をしている。在庫については、ようやく生産・物流とも順調に動きだしたこともあり、今期末から来期にかけて流通在庫が充足されていくと考えている。

(問3) 小麦の価格上昇や消費増加の報道があった。畑作市場と稲作市場の需要構造に変化がでてくるか。またそれに対して当社はどのような取り組みを実施していくか。

(回答)

- ・今後米から麦・大豆・子実コーン等への転作は進んでいくと考えている。足許でもこれらに関連する商品は伸びてきている。例えば麦を収穫する大型汎用コンバインは今期需要が非常に延びており、来期も期待感はある。また麦を播種する作業機や牽引するトラクタ、普及が進んでいる自動操舵関連や直進アシストなどのスマート農機関連も引き続き需要拡大になると考えている。来年度の農林水産関係概算予算でも機械補助という形で組み込まれており、国内では注視していきたい。

(問4) 同業他社と比較して修正内容に違いはあるか。特に北米、タイについて。

(回答)

・他社のことなので答えにくいですが、北米においてアタッチメント不足の話があった。当社も同様に北米において AGCO 社アレンジの作業機の遅れが一部あり、引き取り遅れになっている。

タイ市場における洪水影響については当社も同様の懸念はあるが、営業エリアの違いもあるため、必ずしも同じにはならないと考えている。

原材料価格高騰への対応力は違いが出ていると思う。海外売上高比率や商品ラインナップの違いなども要因と考えている。

(問5) 第4四半期は例年赤字だが今期黒字化する要因は？

(回答)

・当社は現状では未だ国内売上高比率が高く、農閑期となる第1・4四半期は比較的赤字になりやすい体質。昨年は経営継続補助金の影響もあり第1四半期が絶好調で従来と違い黒字化した。今期の第4四半期黒字化要因は、増収による粗利益の増加や値上げ効果の実現が大きい。特に国内の価格改定効果は、第4四半期でようやく効いてくる。また、今期は受取技術料を見込んでおり、これを加えると今回の業績修正値は達成できると考えている。

以上

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2022年12月期第3四半期決算説明会開催日(2022年11月14日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。